

## 文献紹介

### 乾癬に対する生物学的製剤などの有効性に関するメタアナリシス

近年、乾癬の治療の選択肢は多岐にわたり、臨床医にとって薬剤の選択が困難になりつつある。特に、これまで TNF, IL-17, IL-23 等を標的にした生物学的製剤が登場しているが、それぞれ有効性、安全性、投薬方法が多様であり、これらを直接比較した試験は少ない。この論文では、ネットワークメタアナリシスなどを行うことで、薬剤の導入期から維持療法期における成績を間接的に比較した。

対象は、米国食品医薬品局および欧州医薬品庁に認可された薬剤を使用した中等症～重症の患者に対する第 II～IV 相のランダム化比較試験で、導入期(10～16 週後)、維持療法期(44～60 週後)における Psoriasis Area and Severity Index (PASI) 75・90・100(ベースラインからの減少率)を達成した患者の割合を評価した。

導入期における PASI 90 達成率は、リサンキズマブ 150 mg(71.6%)、イキセキズマブ 80 mg(70.8%)、プロダルマブ 210 mg(70.6%)、グセルクマブ 100 mg(67.3%)が、他の生物学的製剤やアプレミラスト、フマル酸ジメチルといった内服薬と比較して有意に高い成績を示した。PASI 75, 100 においても同様に高い

達成率を認めたが、いずれもこれら薬剤間での有意差はみられなかった。維持療法期における PASI 90 達成率は、リサンキズマブ 150 mg(79.4%)、グセルクマブ(76.5%)、プロダルマブ 210 mg(74.0%)、イキセキズマブ 80 mg(73.9%)、セクキヌマブ 300 mg(71.3%)が特に良好な成績を示した。なかでも PASI 100 達成率においては、リサンキズマブやプロダルマブ、イキセキズマブは、セクキヌマブと比較して有意に高かった。

これらの結果から著者らは、中等症～重症の乾癬に対する生物学的製剤などの成績を比較した結果、リサンキズマブ、イキセキズマブ、プロダルマブ、グセルクマブは特に PASI 減少率が高いと結論づけている。実際の臨床では、患者背景によって安全性や投与方法などを考慮して薬剤を選択するべきである。

Armstrong AW, et al: Comparison of Biologics and Oral Treatment for Plaque Psoriasis A Meta-analysis. JAMA Dermatol 156:258-269, 2020

(慶應義塾大学 小川 夕貴)